Osaka University Knowledge Archive

Title	京都府福知山市におけるアスペクトの否定形式-テンの使用
Author(s)	中川, 真紀子
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2023, 19, p. 1-25
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/92430
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

『阪大社会言語学研究ノート』第 19 号（2023 年 2 月）1-25
〈研究論文〉

京都府福知山市におけるアスペクトの否定形式-テンの使用

中川　真紀子

【要旨】
京都府福知山市では、若年層を中心にアスペクトの否定形式として「-テン」が使用されている。本稿ではこの-テンの使用方法について談話調査・アンケート調査・面接調査を行い、-テンはそれ自体が活用可能であること、文中の位置や後接の音を問わず使用できることが分かった。加えて、アスペクトの否定形式-テンは、福知山方言の方言敬語（テヤ敬語）や近隣方言のアスペクトの肯定形（撥音化形）、およびノダ相当形式の過去形と類似の形式でありながらも、特有のアクセントを持っていることで他の類似形式との判別が可能であることが明らかになった。-テンの成立要因について、-テンは文法体系をより簡素で分かりやすくするために発生したと考えられる。他地域では音韻的制約ゆえに否定形式の-テンがブロックされるが、福知山方言ではこの制約がないために定着が可能であったとみられる。また西日本各地で伝統形式が標準語形-テナイに取って代わられているのに対し、福知山方言で-テナイではなく-テンの使用が広まった原因には、方言敬語テヤの否定形「-てない」の影響があると考えられることを論じた。

【キーワード】丹波方言、アスペクト、否定形式、-テン

1.　はじめに

京都府福知山市では、アスペクトの否定形式として-テヘン、-トラン、-テナイなどが使用されている。しかし、近年は-テンという新しい形式が用いられている[1)]。

（1）まだご飯｛食ベテヘン／食ベトラン／食ベテナイ／食ベテン｝。（食べていない）

しかし、このような「-てん」という形式は、近隣の方言ではアスペクトの否定形式としては一般に使用せず、「過去＋ノダ相当形式」（「～したのだ」）や、アスペクトの肯定形の撥音化形として使用されている。

（2）もうご飯食べてん。（食べたんだ）

（3）今ご飯食べてんねん。（食べているんだ）

また、アスペクトの否定形式に関して、-トラン、-ヨランなどの方言形から標準語形-テナイへの変化が西日本各地で指摘されている。しかし福知山市の方言（以下「福知山方言」と表記する）では、「-てない」は方言敬語-テ(ヤ)の否定形式として使用されている。

（4）先生がご飯を食べてない。（召し上がらない）

西日本の他の地域と違って「-てない」が方言敬語の否定形式を担っていることが、アスペクトの否定形式-テンが生じる要因となっている可能性がある。本稿ではこうした事柄を

1）　例文は筆者の作例による。アスペクトの否定形式「-テン」の例については、福知山方言話者が文法上可能であると判断したものを採用している。以下同じ。

踏まえつつ、福知山方言におけるアスペクト否定形式-テンについて記述する。

2.　先行研究

ここでは初めに、アスペクトの変化や使用に関する先行研究をまとめる。まず福知山方言を概観したのち、他方言も含め、方言のアスペクトマーカがこれまでどのように変化してきたか、その傾向を確認する。加えて、先述の通り「-てん」は、近隣地域に同形もしくは類似した方言形式を持っているため、2.2 節ではこれらに関する先行研究にも触れておく。

2.1.　調査地の方言の概観

本研究では、福知山市（F）および近隣の舞鶴市（M）・京丹後市（G）・京丹波町（B）出身の若年層に対して調査を行った（3 節参照）。それぞれの位置を京都府の地図によって示す（図 1）。方言区画では、観点によってその境界には違いがあるものの、福知山市はおおむね丹波方言に分類される（図 2）。奥村（1962）は京都府の方言を細分化し、福知山方言を周辺市町村とは区別して「福知山式」の言葉と称している。現在の市町村境界に従うなら、かつて周辺にあった天田郡[2)]（天田式・久美浜式）、加佐郡（宮津式・綾部式）も今回の調査地に含まれる。奥村（1968）ではより大まかに、福知山市の大部分を北近畿式方言、西端部のみ中近畿式方言に分類している。遠藤（1982）に従うならば、福知山市はその大部分が丹波

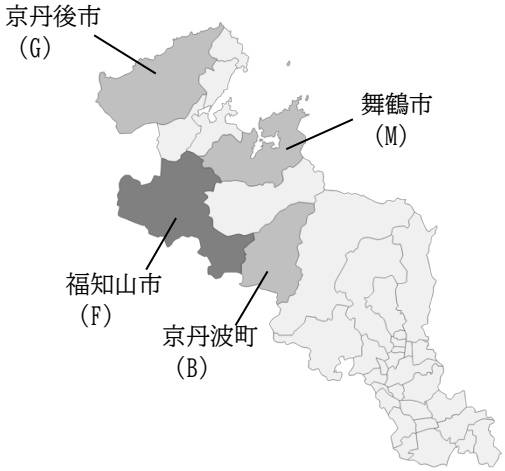

図 1　福知山市の位置

図 2　京都府の方言区画
（出典：方言文法研究会ホームページ）

2)　奥村（1962）は名称変更の影響を避ける目的で区画に郡名を採用しているが、本稿ではすべて旧町名を用いた表記に統一する。これは以下の理由による；①天田郡は段階的に福知山市に合併されたため、時期によってその領域が異なること、②加佐郡は舞鶴市、宮津市、福知山市に跨っており、本研究の対象地域に限定するには「旧大江町」としたほうが正確であること、③郡の区分を知っていたインフォーマントがおらず、郡名による区画が福知山市の若年層の感覚と乖離しているとみられること、④インフォーマントに旧福知山市域と旧町域を区別して捉えるような言動が見られたこと。また上記①の理由により郡域の詳細が不明なため、本稿では便宜的に奥村（1962）の「天田郡」を「旧夜久野町と旧三和町を併せたもの」と読み替えている。

方言に、旧大江町域は西丹波方言に、旧夜久野町域は奥丹後方言に分類される。

岸江（2014）の通信調査によると、福知山市周辺では動詞の否定形式としてイカヘン（行かない）、ミーヒン（見ない）、キーヒン（来ない）、シーヒン（しない）、否定の過去を表す形としてイケヘンダ・イカナンダ（行かなかった）の使用が確認されている。

2.2.　丹波方言におけるアスペクト

『方言文法全国地図　第4集』（国立国語研究所、1999年）の第198図・第199図・第200図によれば、福知山市では進行態を「散っトル」「散りヨル」、結果態を「散っトル」「散ってしもた」、将然態を「散りかけトル」と表現するとあり、アスペクトマーカにはトルとヨルが使用されているとみられる。ただし、アスペクトの否定形式については記述がない。

国立国語研究所の「全国方言分布調査」（FPJD、2010-2015年）では[3]、サンプルが1、2例と少ないものの、福知山市では継続相を「走っトル」「散りヨル」、結果相を「散っトル」、否定形式に「まんだ食べテヘン」を使用するとの回答があった。

2.3.　他方言におけるアスペクト否定形式の変化

ここでは、方言におけるアスペクトの否定形式の変化を扱った研究を挙げる。

まず近接する近畿地方における方言のアスペクト形式の変化を調査したものには、高木（2004）、中田（2021）などが挙げられる。高木（2004）では、関西方言話者の若年層を対象に談話調査を行い、アスペクトの否定表現は-テナイのほうが-テヘンよりも多用されていることを指摘している。中田（2021）では三重県伊賀方言話者を対象にした談話調査により、アスペクトの否定形において、高・中年層では-ヘンの使用率が-ナイを大きく上回るのに対し、若年層は-ナイ専用に近づいていると述べている。

同時に、高木（2004）、中田（2021）共にアスペクトの否定形に対して-ンを使用することはできないとしている。この要因について高木（2004）では、関西方言[4]では「-てん」という形式が別の意味で使用されており同音衝突を起こすという音韻的制約があるためだと考察している。詳細は次節に記述する。

同様の現象は他の西日本方言でも見られる。津田（2008）では、徳島県の談話資料を基に徳島県のアスペクト否定形式を調査し、世代が下がるにつれ従来形式-ヨラン/-トランから-テナイに変化していることを指摘している。その変化は徳島県内では吉野川を北上する形で進んでいるとも述べている。

二階堂（2006）では、福岡方言話者を対象に談話調査を行い、若年層を中心にアスペクトの否定形では従来の-ヨラン/-トランを使用せずに、-テナイを使用する傾向があると指摘している。平塚（2012）でも、福岡方言話者による自然談話を収録し、比較を行った結果、

3）　国立国語研究所の共同研究「方言の形成過程解明のための全国方言分布調査」の成果に基づく。

4）　本稿では「関西方言」を大阪方言や京都方言などの総称として使用する。福知山市も京都府には位置するが、アクセントが京阪式でないことやインフォーマントの意識を鑑み、関西方言には含めない。

若年層にかけて、アスペクトの否定形に専ら非伝統形式-テナイを使用するように変化していると述べている。この変化について、肯定形に比べ否定形の使用頻度が少ないがゆえにブロックが起きず、まず-テナイが-トランの使用域に侵入し、加えて伝統形式-ヨラン/-トランの区別がなくなってきていたことから、否定形式全体に-テナイの使用が拡大したと考察している。

2.4.　近隣の方言における-テンの使用

福知山市の近隣地域では、「-てん」をアスペクトの否定以外の意味で使用する。野間（2014）にあるように、関西方言では「～したのだ」という意味で「-てん」を使用する。

（5）先月東京行ってん。（行ったんだ）

あるいはアスペクトの肯定形が撥音化を起こし「-てん」になる例もある。

（6）今テレビ見てんねん。（見ているんだ）

高木（2004）によれば、関西方言話者の若年層は「-てん」をアスペクトの否定の意味では使用しないと述べ、それは「-てん」という語形がこれらの用法と同音であるがゆえに音韻的制約があることが原因であるとしている。こうした同形の「-てん」を他の意味で用いる方言が近隣にありながら、なぜ福知山方言で-テンをアスペクトの否定形として使用するのかは明らかでない。

2.5.　福知山方言における-テナイの使用

さらに、福知山市では方言敬語の１種であるテ敬語・テヤ敬語（以下「テヤ敬語」表記に統一する）が広く使用されている。福知山市におけるテヤ敬語の活用について、福居（2015）を参考に表１に示す。

表１　福知山市におけるテヤ敬語の運用

		普通体		丁寧体	
		肯定	否定	肯定	否定
断定形	非過去形	書いテヤ 書いチャ	書いテない 書いチャない	書いテです	書いテないです
	過去形	書いチャった	書いテなかった 書いチャなかった	書いチャったです	書いテなかったです

非過去・肯定形の「書いチャ」という形式について、福居（2015）によれば中年層以上で使用されているとのことである。したがって若年層では「書いテヤ」を使用していることになる。そのため否定形式は「-てない」になり、-テンと比較的似た形式になる。

（7）先生がまだ来てない。（お見えにならない）

（8）先生がまだ来とってない。（お見えになっていない）

これらは-テンだけでなく、アスペクトの否定の標準語形-テナイとも混同しやすい。

2.6. 問題のありかと本研究の目的

丹波方言のアスペクトの否定形式を調査した先行研究は少なく、福知山市に新形式-テンが出現していることを記述した研究はない。加えて、西日本方言では各地で従来形式から標準語形-テナイへ変化する傾向が指摘されているが、標準語形ではなく別の新しい方言形式に変化している事例を記述したものは少ない。このような中で福知山方言にアスペクトの否定形に新形式が現れていることは特筆すべきことである。

-テンという形態の面からみても、近畿地方の各地でアスペクトの否定形に-テンが使用できないとされる中で、福知山方言ではアスペクトの否定形として-テンが使われている。だがその使用のされ方は明らかになっていない。更に、関西方言にはアスペクトの肯定形（-ている）が撥音化した「-てん」、ノダ文の意味での「-てん」があり混同の虞があるにもかかわらず、なぜ福知山方言において-テンがアスペクトの否定形として使用されるに至ったのかについても不明である。

本研究では、福知山市の若年層を対象とした調査をもとに、-テンがどのように使用されているのか、その用法を記述する。その上で、福知山方言におけるアスペクトの否定形が、なぜ標準語形-テナイではなく-テンに変化したのか考察する。

3. 調査概要

本研究では談話調査、アンケート調査、面接調査の 3 つの調査を行った。それぞれの概要を記述する。

3.1. 談話調査

アンケート調査・面接調査で用いる例文を作成するにあたって、用例を収集する目的で談話調査を実施した。収集したのは、福知山市で言語形成期を過ごした若年女性と筆者との対面による自然談話（1 時間 17 分 24 秒）である。話題は特に設けず、自由に話してもらった。インフォーマントと筆者は友人関係にあるため、会話内で使用された言葉はインフォーマントの自然な言葉に比較的近いと考えられる。インフォーマントは 22 歳女性で、0 歳から 18 歳まで京都府福知山市、18 歳から現在まで大阪府箕面市に居住している。なお、本談話調査のインフォーマントは 3.3 節で述べる面接調査のインフォーマントとは重ならないが、次節で述べるアンケート調査には回答している可能性がある（ただしアンケート調査は匿名で行ったため、回答者の特定はできない）。

3.2. アンケート調査

より多くの若年層に対し、-テンの基本的な使用のあり方を調査するため、フォームを用いて選択肢式の Web アンケートを取った。アンケートの協力者の言語形成地と現住地の情報は表 2 の通りである。なお本稿では、生まれてから 15 歳までの間で最も長く過ごした土地を「言語形成地」としている。

インフォーマントは 20～22 歳の 15 人で、うち 12 人が福知山市（F）、他の 3 人は舞鶴市（M）、京丹後市（G）、京丹波町（B）といった福知山周辺の市町で言語形成期を過ごしてい

表2　アンケート調査インフォーマント情報

話者 ID※1	言語形成地※2	現在の居住地
F1	京都府福知山市	徳島市
F2		広島県東広島市
F3		京都市
F4		福岡市
F5		京都市
F6		長野市
F7		石川県金沢市
F8		大阪府箕面市
F9		京都市
F10		愛媛県松山市
F11		岐阜市
F12		京都市
M1	京都府舞鶴市	東京都 23 区内
G1	京都府京丹後市	東京都 23 区内
B1	京都府京丹波町	京都市

※1　ID のアルファベットは福知山市（F）、舞鶴市（M）、京丹後市（G）、京丹波町（B）を表す。

※2　生まれてから 15 歳までの間で最も長く過ごした土地。

る（各市町の位置関係については 2 節の図 1 を参照）[5]。5 節以降では、特に言及がない場合、福知山市で言語形成期を過ごしたインフォーマント（F1～F12）の結果について述べ、M1、G1、B1 については比較対象として見ていく。

アンケートでは、筆者が-テンを使用した短文を作成し、それぞれの言い方が可能か判断してもらった。調査項目（調査意図）ならびに設問は以下の通りである。

（9）アンケート調査の調査項目

QA）動詞の活用の種類による使用制限の有無：

動詞の活用の種類によって-テンと接続できないものがあるか。

QA-1.「学校に行っていない」という意味で[6]「学校に行ってん」と言うことができますか。

QA-2.「お昼ご飯を食べていない」という意味で「お昼ご飯食べてん」と言うことができますか。

QA-3.「昨日は寝ていない」という意味で「昨日は寝てん」と言うことができますか。

5）遠藤（1982）に従えば、舞鶴市は福知山市と同じ丹波方言、京丹波町は口丹波方言である。京丹後市は旧久美浜町が福知山市西端部（旧夜久野町の一部地域）と同じ奥丹波方言に分類されるが、そのほかの大部分は丹後方言であり、福知山市とは方言区画が異なる。奥村（1968）でも、舞鶴市は福知山市と同じ北近畿式方言だが、京丹波町は中近畿式、京丹後市は非近畿式方言としている。

6）調査項目 QA の質問文はそれぞれ「～していないという意味で」という限定を加えているが、これは関西方言にみられる「～したのだ」という意味の-テンと区別するためである。

QA-4.「宿題をしていない」という意味で「宿題してん」と言うことができますか。
QA-5.「バスが来ていない」という意味で「バスが来てん」と言うことができますか。
選択肢：a.できる　b.できない　c.その他（自由記述）
QB）他形式との併用：伝統形式-テヘン/-トラン及び標準語形-テナイを使用するか。
QB-1.「していない」という意味で、使う形式をすべて選んでください。
選択肢:a.しとらん　b.してへん　c.してん　d.してない　e.その他(自由記述)
QC）過去の形式：-テンを用いて過去を表すことができるか。
QC-1.「お昼を食べていなかった」という意味で、「お昼を食べてんかった」と言うことができますか。
選択肢：a.できる　b.できない　c.その他（自由記述）
QD）関西方言の-テンとの判別：
類似形式である、関西方言に広くみられる-テンとの区別があるか。
QD-1.「最近映画見てん」と言われたら、どのような意味で受け取りますか。
選択肢：a.最近映画を見た[7)]　b.最近映画を見ていない
c.どちらの意味にもなりうる　d.どのような意味なのか分からない
e.その他（自由記述）
QD-2.「最近映画見てんねん」と言われたら、どのような意味で受け取りますか。
選択肢：a.最近映画を見ているんだ　b.最近映画を見ていないんだ
c.複数の意味になりうる　d.どのような意味なのか分からない
e.その他（自由記述）
QE）テヤ敬語との区別：類似形式である、テヤ敬語否定形式と区別があるか。
QE-1.「先生が食べていらっしゃらない」という意味で「先生が食べとってん」と言うことができますか。
選択肢：a.できる　b.できない　c.その他（自由記述）
以上が実際の設問と選択肢である。アンケート調査の結果については5節で述べる。

3.3.　面接調査

-テンについてのより詳細な使用方法を知る目的で、アンケート調査よりも少ない人数に対して面接調査を実施した。面接調査のインフォーマントは、福知山市で言語形成期を過ごした若年層8名である（表3)。表中、インフォーマントIDの初めのFは福知山市出身者であることを示し、次のアルファベットが男性（M）/女性（F）を示している。数字は男女別の通し番号である。調査はおもに通話やオンライン会議ツールを用いた遠隔調査によって行い、1名のみ、対面での調査を実施することができた。なお、この調査の協力者は匿名式のアンケート調査（3.2節）の回答者と重なっている可能性がある。

7）関西方言の「-テン」の意味を正確に表すなら「見たのだ」とすべきところであったが、調査票の不備により「見た」を選択肢として挙げてしまった。しかしながら、5節でみるとおり、結果に大きな影響はなかったと思われる。

表３　面接調査インフォーマント情報

話者 ID	年齢/性別	居住歴	調査方法
FF1	22 歳女性	0-18：福知山市、18-現在：広島県東広島市	通話
FM1	22 歳男性	0-18：福知山市、18-現在：東京都小金井市	通話
FM2	22 歳男性	0-21：福知山市、21-現在：京都市	通話
FF2	22 歳女性	0-18：福知山市、18-20：京都府舞鶴市 20-現在：京都市	対面
FF3	20 歳女性	0-18：福知山市（旧夜久野町）、18-20：京都市 20-現在：兵庫県神戸市	オンライン会議ツール
FF4	21 歳女性	0-18：福知山市（旧三和町）、18-現在：徳島市	オンライン会議ツール
FF5	21 歳女性	0-5：兵庫県和田山町（現朝来市） 5-18：福知山市（旧夜久野町）、18-現在：大阪市	オンライン会議ツール
FM3	21 歳男性	0-18：福知山市、18-20：東京都杉並区 20-現在：東京都中野区	オンライン会議ツール

また、調査に使用した設問は次の通りである。例文中、高く発音する箇所は上に直線を引いて示し、以降もアクセントはこのように示す。

（10）面接調査の設問

IA）音韻変化

IA-1.「まだ死んでいない」ということを、何と言いますか。

IA-2.「あの人とは最近遊んでいない」ということを何と言いますか。

IA-3.「その漫画はまだ読んでいない」ということを、何と言いますか。

IB）接続できない動詞

IB-1.「教室に誰もいない」という時、「教室に誰もいテン／おっテン」と言うことができますか。

IC）アクセント

IC-1.「今日は図書館に行っていない」ということを、何と言いますか。

IC-2.「行っテン」「行っテン」と言うことはできますか。

IC-3.「あまり覚えていない」ということを、何と言いますか。

IC-4.「その答えで間違っていない」ということを、何と言いますか。

IC-5.「あまり深く考えていない」ということを、何と言いますか。

IC-6.「今日は走っていない」ということを、何と言いますか。

IC-7.「まだご飯を食べていない」ということを、何と言いますか。

IC-8.「部活動に入っていない」ということを、何と言いますか。

IC-9.「まだ帰っていない」ということを、何と言いますか。

ID）過去形

ID-1.「昨日は宿題をしていなかった」ということを、「昨日は宿題をしテンかった」と言うことができますか。

ID-2.「昨日は宿題をしテナンダ」と言うことはできますか。

IE）テ形

IE-1.「宿題をしテンくて、怒られた」と言うことができますか。

IE-2.「しテンかって／しテンで怒られた」と言うことはできますか。

IF）従属節（から）

IF-1.「まだバス来テンから、待とう」と言うことができますか。

IG）連体節

IG-1. 部活に入っていない人のことを、「部活入っテン人」と言うことができますか。

IG-2. 何も入っていない箱のことを、「何も入っテン箱」と言うことができますか。

IH）質問文

IH-1. 雨が降っていないか尋ねるときに、「今、雨降っテン？」と言うことができますか。

II）従属節（仮定）

II-1.「まだ課題できテンなら、手伝うよ」と言うことができますか。

II-2.「まだ課題できテンのやったら、手伝うよ」と言うことができますか。

IJ）従属節（のに）

IJ-1.「宿題できテンのに遊びに行く」と言うことができますか。

IK）「のだ」相当形式との接続

IK-1. 部活動に入っていないんだ、という意味で「私は部活入っテンのや」と言うことができますか。

IK-2. 同じ意味で、「私は部活入っテンねん」と言うことはできますか。

IL）テヤ敬語

IL-1.「先生がまだ来られていない」という時に、「先生まだ来とっテン」と言うことができますか。

IL-2.「先生がまだ来られていなかった」という時に、「先生まだ来とっテンかった」と言うことができますか。

IM）他形式との違い

IM-1.「最近は図書館に行っていない」ということを、「図書館に｛行っテヘン／行っトラン／行っテナイ｝」と言うことができますか。

IM-2.（上記3形式について）一番よく使うと思うのはどの形式ですか。

IM-3.（上記3形式について）意味や印象に違いはありますか。

以上が面接調査にあたって用意した設問である。調査結果については6節で扱う。

4. 談話調査結果

本節では、談話調査の結果を記述する。談話に現れたアスペクト形式をまとめると表4の通りであった。肯定形のアスペクトには-トル（37例）、-テル（6例）が見られた。一方の否定形には-テナイ（14例）、-テン（4例）、-テンと同じ意味と見られる-デン（1例）が見られたが、-テヘン、-トランなどの使用は見られなかった。以下に-テン/-デンの実際の使用例を示す。

表４　談話に現れたアスペクト形式

	-トル	-テル
肯定形	37	6
否定形（-ナイ）	-	14
否定形（-ン）	-	5（1※）
否定形（-ヘン）	-	-

数字は実数。「-」は用例が得られなかったことを表す。
※5 例中 1 例は「-デン」の形で現れた。

（11）とりあえず私は予約できテンし。
（12）〇〇（友人）は（SNS を）しテンよな？
（13）前期は一回も行っテンけど。
（14）今（サークル活動を）しテンしな。
（15）〇〇ちゃんとしか遊んデン。

ここから、-テンはいわゆる連用形接続であり、言い切りの形でも使用でき、「し」「けど」などの接続助詞や「よな」のような終助詞が後接できることが窺える。以降の調査に使用する例文はこれらをもとに作成した。

5.　アンケート調査結果

ここではアンケート調査の結果をまとめる。まず 5.1 節で動詞の活用の種類による-テンの使用可否を述べる。5.2 節ではアスペクトを表す他形式と併用するか、また-テンを使って過去形を表せるかを述べる。加えて、類似形式との判別という観点から、5.3 節では関西方言の-テン、5.4 節ではテヤ敬語を使用するときの-テンの用例について述べていく。

5.1.　動詞の活用の種類による制限（設問 QA）

動詞の活用の種類によってテンの使用に制限があるか調査した。表 5 は設問 QA-1 から QA-5 までの回答をまとめたものである（具体的な質問文は 3.2 節を参照）。表中の〇は「（そのように）言うことができる」の回答、×は「言うことができない」の回答である。また選択肢で「その他（自由記述）」を選んだものについては表中では「その他」とし、具体的な回答を表の下に記した。

F1・F9・F12 については、-テンを使用できる動詞とできない動詞が分かれた。F1 は「行っテン」「来テン」という言い方はできないとし、F9 も「来テン」について「できない」としている。これに対して F12 は「行っテン」のみ「できない」としている。それぞれ、否とした形式に一部重なりは見られるものの、それらの形式について「使用できない」とした理由は不明である。いずれにしても、多数派の結果を見る限り、動詞の活用の種類によって使用の可否が分かれることはないといえるだろう。また、福知山以外の地域出身である 3 名（M1・G1・B1）は、-テンによる表現に対してすべて×と回答している。この点からも、-テンが福知山市で独自に使用されていることが見て取れる。

表5　動詞の活用の種類ごとの-テンの使用可否

	QA-1. 行っテン	QA-2. 食ベテン	QA-3. 寝テン	QA-4. しテン	QA-5. 来テン
F1	×	○	○	○	×
F2	○	○	○	○	○
F3	○	○	○	○	○
F4	○	○	○	○	○
F5	×	×	×	×	×
F6	○	○	○	○	○
F7	○	○	○	○	○
F8	○	○	○	○	○
F9	○	○	○	○	×
F10	○	○	○	○	○
F11	その他	その他	その他	その他	その他
F12	×	○	○	○	○
M1	×	×	×	×	×
G1	×	×	×	×	×
B1	×	×	×	×	×

凡例　○：言うことができる　×：言うことができない
「その他」：「通じるけれども、岐阜（現在の居住地）では通じないと言われた。」（F11）

5.2.　他の形式との併用と過去形の使用可否（QB・QC）

若年層は-テン専用になっているのか、あるいは他の形式も併用しているのかをみたのが設問 QB である。インフォーマントが使用するアスペクトの否定形式を表 6 にまとめた。

表6　アスペクトの否定形式の使用状況

	しテン	しテヘン	しテナイ	しトラン	その他	回答語数
F1	●	●	●	●		4
F2	●	●	●		セーヘン	4
F3	●	●				2
F4	●	●	●	●		4
F5		●	●	●		3
F6	●	●				2
F7	●	●		●		3
F8	●		●			2
F9	●	●	●	●		4
F10	●	●	●			3
F11			●	●		2
F12		●	●			2
M1		●	●			2
G1		●	●	●		3
B1		●				1
合計	9	13	11	7	1	41

凡例　●：使用する　（数字は実数）

表では、「使用する」と回答があったものを●で示した。結果を見ると、ばらつきはあるものの総じて-テヘンの使用が多く、次いで-テン・--テナイの使用が多い。-テンは12名中9名が「使用できる」とし、広く普及している状況がうかがえる。他方、「回答語数」の欄からわかるとおり、アスペクトの否定形式として-テンだけを使用するという人はおらず、いずれのインフォーマントも何らかの併用語形をもっている。このことから、若年層は-テンと従来形式-トラン/-テヘン及び標準語形-テナイのいずれか（あるいは複数）を併用していると考えられる。

また、-テンを用いて過去の事象を表現する際、-テンカッタと言えるか（設問 QC）については、F5及び周辺地域出身者を除く全員が可能であると回答した。

5.3.　関西方言の-テンとの判別（QD）

設問QDでは、関西方言に広くみられる-テンと、福知山方言にみられる-テンの判別が可能か調査した。表7は関西方言の-テンと区別があるかについての、設問QD-1、QD-2に対する回答をまとめたものである。

まず言い切りの形式「見テン」（QD-1）をみると、「どちらの意味にもなりうる」（◎）という回答が最も多い。それ以外の2名は「見ていない」（●）、即ちアスペクトの否定形式と考えるという意見であり、いずれにせよ他の関西方言にみられる「～したのだ」という意味だと断定した人はいない。これは周辺地域出身のインフォーマントの回答（○・△）とは対照的である。

表7　見テン／見テンネンに対する意味の捉え方

	QD-1.見テン（言い切り）	QD-2.見テンねん
F1	◎	◇
F2	◎	◆
F3	◎	◆
F4	◎	◇
F5	◎	◇
F6	●	◇
F7	「見てん」の発音で判断する	◇
F8	◎	◇
F9	◎	◆
F10	●	◇
F11	◎	◇
F12	◎	◇
M1	△	◇
G1	○	◇
B1	○	◇

凡例　○：「最近映画を見た」の意　◇：「最近映画を見ているんだ」の意
●：「最近映画を見ていない」の意　◆：複数の意味になりうる
◎：「見た・見ていない」どちらの意味にもなりうる
△：どのような意味なのか分からない

ただし、F7 の回答に着目すると、文脈ではなく「見テン」の発音（おそらくはアクセント）に基づいて判断していることが分かる。このため、どちらの意味にもなりうると回答した話者も、調査の媒体が文字であるから「どちらの意味にもなる」と回答しているものの、音声会話では一方の意味に断定できると思われる。

次に、「見テンねん」と言った場合の意味理解（QD-2）は、言い切りの形に比べると、複数の意味になるという回答（◆）が減少し、かつ「見ているんだ」という関西方言にみられる意味（◇）で捉えられる傾向にある。ただ、複数の意味になるという回答も若干見られることから、「テン＋ネン」をアスペクトの否定形式として捉えることは可能ではあるものの、さほど一般的でないと推測される。福知山方言で「～していないのだ」という意味にするためには、「～しテンノヤ／～しテンノジャ」のような、何らかの他の形式が存在し、「～しテンネン」とは言わないことが考えられる。

5.4.　テヤ敬語との併用（QE）

福知山市においては、テヤ敬語を用いた場合アスペクトの否定形式は「～しとってない」である。このような「-とってない」の形をとる文で、-テンを併用して「～しとっテン」と言うことができるか調査したところ（設問 QE）、全員が「できない」と回答した。F7 によれば「食べとってない」と言うとのことである。

テヤ敬語の否定形式である「-てない」は-テンに置き換わらない。そのためやや形は似ているものの、-テンと「-てない」のいずれを用いるかによって、アスペクトの否定形式-テンとテヤ敬語の否定形式は区別できる。ゆえに福知山市若年層の間ではテヤ敬語否定とアスペクト否定形式-テンの間に混同が起きないと思われる。

他方、完全に同型であるアスペクトの否定形式-テナイと、テヤ敬語否定形式の「-てない」がどのように区別されているのかはアンケート調査では明らかにならなかった。この点は面接調査の結果（6.8 節）であらためて述べる。

6.　面接調査結果

本節では、面接調査の結果を記述する。6.1 節～6.5 節では、-テンそのものの使用のあり方を記述する。具体的には動詞との関連、アクセント、活用、文中で使用できる位置、疑問を表す用法について述べる。6.6 節以降は、-テンと他の形式の判別を中心に取り上げる。

6.1.　接続する動詞（IA・IB）

まず前接の動詞による音韻変化について、談話調査では-テンではなく-デンという使用例があったことから、このように音韻変化を起こす状況を面接調査でも尋ねた。設問 IA の結果をまとめる。

（16）まだ死んデン。（IA-1）

（17）あの人とは最近遊んデン。（IA-2）

（18）その漫画まだ読んデン。（IA-3）

設問 IA-1〈死んデン〉に関して FF4 から使用しないという指摘があったほかは、上記の

ような言い方ができるという回答が得られた。この結果から、-テンはいわゆるテ形と同様の規則性を持っており、語幹末の子音が/n, m, b, g/の時に-デンになることが推測される。

次に、接続できない動詞について（設問 IB)、インフォーマントによれば福知山市において、少なくとも若年層では「いテン」「おっテン」という形式はない。関西方言にみられる「いテヘン」という形式も使用しない。存在を否定する際にはアスペクトの否定ではなく「おらン」「おらヘン」のような否定の形式を使用することが分かった。

6.2.　-テンのアクセント（IC）

本節では-テンが持つアクセントについて記述する。第一にどのようなアクセントを持っているか確かめ、そのパターンをモーラ数が多い動詞で確認した。最後に動詞単独でのアクセントが異なる場合でも同じアクセントパターンで発音するかを調べた。

まず「行っテン」のアクセント（設問 IC-1、IC-2）をまとめたものが表 8 である。

表 8　-テンのアクセント（設問 IC-1、IC-2）

	いっテン	いっテン	いっテン
FF1	○	×	△
FM1	○	×	×
FM2	○	×	×
FF2	○	×	×
FF3	○	×	×
FF4	○	×	×
FF5	○	×	×
FM3	○	×	×

凡例　○：使用できる　△：使用できるかもしれないが迷う　×：使用できない

すべてのインフォーマントが、「いっテン」というアクセントであればアスペクトの否定の意味として成り立つと答えた。一方「いっテン」というアクセントは、関西方言同様アスペクトの否定ではなく通常の過去形式の断定（行ったのだ）と解釈すると述べた。なお 4 名のインフォーマントが、これ（「いっテン」）は関西弁であり、聞けば解釈できるが日頃はあまり使用しないと回答した。すなわち、アスペクトの否定形式-テンには従うべきアクセントのパターンがあり、同じ-テンという音を持っている他の形式と意味を判別する際に利用されていると考えられる。

次に、モーラ数が多い動詞で確認すると、ほとんどのインフォーマントが以下のようなアクセントで発音した。

（19）あんまりおぼえテン。（IC-3）

（20）その答えでまちがっテン。（IC-4）

（21）あんま深くかんがえテン。（IC-5）

これを、これまでの設問で尋ねた「行っテン」、「あそんデン」などと併せて考えると、-テンまでを平板に発音することが特徴であるといえる。

表9　動詞のアクセントごとの-テンのアクセント

	走る	食べる	入る	帰る
FF1	はしる →はしってん	たべる →たべてん	はいる →はいってん	かえる →かえってん
FM1	はしる →はしってん	たべる →たべてん	はいる →はいってん	かえる →かえってん
FM2	はしる →はしってん	たべる →たべてん	はいる →はいってん	かえる →かえってん
FF2	はしる →はしってん	たべる →たべてん	はいる →はいってん	かえる →かえってん
FF3	はしる →はしってん	たべる →たべてん	はいる →はいってん	かえる →かえってん
FF4	はしる →はしってん	たべる →たべてん	はいる →はいってん	かえる →かえってん
FF5	はしる →はしってん	たべる →たべてん	はいる →はいってん	かえる →かえってん
FM3	はしる →はしってん	たべる →たべてん	はいる →はいってん	かえる →かえってん

最後に、動詞のアクセントごとに見ていく。先に動詞単独でのアクセントを確認し、それぞれに-テンを伴わせた例文を発音してもらった。回答は表9の通りである。動詞単独のアクセントにはインフォーマントごとの差があるが、どのようなアクセントで発音されていても、-テンを伴うと同じアクセントパターンが現れるようになることが分かる。これら設問ICの結果から、アスペクトの否定形式-テンにはアクセントの強い規範があり、それによって他の類似形式との判別が可能になっていると考えられる。

6.3.　-テンの活用（ID・IE）

本節では、過去形・テ形に着目し、-テンが活用可能か否か、可能なのであればどのように活用するかを見ていく。まず過去形について、アンケートの結果からは-テンカッタと言えることが分かったが、岸江（2004）には、高年層対象の調査ではあるものの、過去を表す語形に-ナンダも見られた。そのため-テンにも-テナンダという形が存在するかを調査した。

（22）昨日は宿題をしテンかった（設問ID-1）

（23）*昨日は宿題をしテナンダ（設問ID-2）

全てのインフォーマントが、例文(22)は使用可、例文(23)は使用不可と回答した。-テンを用いて過去を表す場合、-テンカッタという形をとると言え、その形にも一定のアクセントの型がある。一方、*-テナンダという形式は存在しない。FM2、FF2によれば、若年層では否定の過去形に-ナンダを使用する人が少ないとのことであるから、新形式である-テンが-テナンダの形をとらないことは自然なことと考えられる。

次にテ形について、高木（2004）によると、-テヘンには-テヘンクテという比較的新しい形式があり、若年層では従来形式より多く使用されていた。-テンにも同様に-テンクテの形が成り立つか、あるいは別の接続になるかを設問IEによって確かめた（表10）。

表 10　-テンを使用した場合のテ形

	しテンクテ	しテンカッテ	しテンデ	コメント
FF1	○	×	×	「しテンクッテ」も可
FM1	○	○	×	
FM2	○	○	×※	※やや迷いあり
FF2	○	○	×	
FF3	○	×	×	「しテンクッテ」も可
FF4	○	△	×	「しテンクッテ」は不可
FF5	○	○	×	
FM3	○	○	×	「しテンクッテ」は不可

凡例　○：使用できる　△：使用できるかもしれないが迷う　×：使用できない

「していなくて」という意味を表す場合、-テンクテが最も許容され、-テンカッテという形式もあると思われる。-テンデについては、おおむね使用できないとの回答であった。FM2 の回答は丹後方言に順接を表す助詞デがあるために混乱が生じた可能性があり[8)]、単に「～していなくて、それで～」と続ける時には-テンクテのほうが自然との事である。

6.4.　文中の位置（IF・IG）

-テンが使用できる文中の位置を確認するため、面接調査では従属節（設問 IF）と連体節（設問 IG）における-テンの使用可否を尋ねた。以下にその結果をまとめる。

（24）バス来テンから、待とう。（バスが来ていないから、待とう）（IF-1）

（25）部活入っテン人（部活に入っていない人）（IG-1）

（26）何も入っテン箱（何も入っていない箱）（IG-2）

上記の例文(24)～(26)についての文法性判断に個人差は見られず、全員が可と回答した。ここから、-テンには接続助詞、体言のいずれも後接できると言える。

6.5.　質問文（IH）

全てのインフォーマントが、-テンを用いて「～していないか」と質問することは可能であると回答した。いずれのインフォーマントも、質問文においては上昇イントネーションで発音した。

（27）今、雨降っテン？（今、雨降っていない？）（IH-1）

FM2 は、このような上昇イントネーションを伴う-テンで質問したときは、単なる問いかけの意味ではなく、確認や同調を求めるような意味合いを伴うと答えた。具体的には、発言者が雨は降っていないと予想していて、そのことを聞き手に確認したいときには使用できるが、雨が降っているか否か全く分かっていないときには使用しないとのことである。

8）野間（2017）より、福知山市に隣接する宮津市には原因・理由の接続助詞デがあることが確認されている。

6.6. /n/が後接する際の使用可否（II～IK）

肯定のアスペクト（～している）を表す「-てる」は、/n/が後接すると撥音化することがある。

（28）最近よく料理してんねん。（しているんだ）

このように/n/が接続する場合はアスペクトの否定形式-テンと肯定形の撥音化形「-てん」が同形になるため、ブロックされ-テンが使用できない可能性がある。こうした/n/が接続する状況でも-テンが使用できるか確認する。なお、下記の例文(29)のように、/n/の他にも/d/などが接続する場合も撥音化が起きることがあるが、今回は/n/に絞って調査を行った。

（29）もうお昼休み終わってんで。（終わっているよ）

まず、仮定を表す「～なら」と「～のやったら」について調査した。設問 II の結果をまとめたものが表 11 である。

表 11　-テンを使用した場合の仮定形式

	できテンなら	できテンのやったら	コメント
FF1	○	○	
FM1	△	○	「～なら」は言いにくい。「できテンのなら」は可
FM2	○	○	
FF2	△※1	△※2	※1「～なら」は言えるが、「できテヘンなら」と言ったほうが自然。 ※2「～のやったら」は「～なら」よりは言いやすいが「できテヘンのやったら」のほうが自然
FF3	○	○	
FF4	△	○	「できテンのなら」は可
FF5	○	○	
FM3	○	○	

凡例　○：使用できる　△：使用できるかもしれないが迷う

「-テンなら」(II-1) という接続は可能とする回答が多数ではあるが、インフォーマントにやや迷いがあった。これは文法的には可だが、単に「～なら」という語形になじみがないということであろう。FM1 は「できテンなら」という使い方は可能だが言いにくく、「できテンのなら」と言うと回答した。FF2 も同様に「できてヘンなら」のほうが自然であると回答した。FF1、FF3 によれば、普段使用するのは「-テンのやったら」(II-2) であり、「-テンなら」は非文ではないが使用はしないとのことである。

次に「～のに」(設問 IJ) の結果については、全てのインフォーマントが「できテンのに」という形で-テンを使用できると回答した。

（30）宿題できテンのに、遊びに行く。（宿題ができていないのに遊びに行く）(IJ-1)

続いて、いわゆるノダ文の「～ノヤ／ネン」(設問 IK) の結果をまとめる（表 12)。括弧内はインフォーマントが例文に対し述べた詳細である。回答から、「入っていないのだ」という意味で「-テンノヤ」を使用できることが分かる。一方、文末にネンを伴う場合は見解が分かれ、主に否定的な回答が多い。これは文末表現ネンの影響が大きいとみられる。

表 12　テンを使用したノダ文（IK-1、IK-2）

	入ってテンノヤ	入ってテンネン
FF1	○	○（問題ない）
FM1	○	○（問題ないが、「入っている」ともとれる）
FM2	○	△（文法的に言えると思うが、「入っている」とも捉えられる。迷う）
FF2	○	△（「入っている」と言っているように聞こえて紛らわしいので、「入ってヘンネン」という方が望ましい）
FF3	○	×（「入っている」という意味になるので使用できない）
FF4	○	×（「入っている」という意味に感じられ不適切）
FF5	○	×（「入っている」という意味に捉えてしまうので使用しない）
FM3	○	×（「入っている」という意味で捉えるのが普通）

凡例　○：使用できる　△：使用できるかもしれないが迷う　×：使用できない

FM3 によれば、ネンは福知山市であまり使用せず、「-テンネン」という語形そのものに関西弁[9] の印象があるという。/n/が後接するから使用できないというよりは、ネンをあまり使用しないがゆえに、「-テン＋ネン」を福知山方言ではなく関西方言と捉え、その結果「～したノダ」と解釈していると考えられる。

以上の結果をまとめると、/n/が後接する場合であってもアスペクトの否定の意味で-テンを使用することができるとみられる。

6.7.　テヤ敬語との判別（IL）

福知山方言におけるテヤ敬語否定形「-てない」は-テンと判別が可能であることがアンケートにより明らかになった。終止形「-てない」との判別に加え、過去形の判別も可能か（設問 IL）についての回答をまとめたものが表 13 である。

表 13　テヤ敬語との判別（IL-1、IL-2）

	来とってテナイ	来とってテン	来とってテなかった	来とってテンかった
FF1	○	×	○	○
FM1	○	×	○	×
FM2	○	×	○	×
FF2	○	×（条件付き○）	○	×
FF3	○	○	○	○
FF4	○	×	○	×
FF5	○	×	○	×
FM3	○	×	○	×

凡例　○：使用できる　×：使用できない

9）　FM3 は近畿中央部の言葉が周縁部に進むにつれ訛っていくのだという方言観を持っており、中丹地域（福知山市、舞鶴市、綾部市）の方言はいわゆる「ちゃった弁」であって関西弁ではないと認識している。そのため FM3 がここでいう「関西弁」は大阪方言や京都方言などを指していると考えられる。

福知山市で広く用いられるテヤ敬語の否定形「-てない」についてはすべてのインフォーマントが使用可能であると回答した。その-ナイを-ンに置き換えた「-とってン」という形については、FF3 を除く全員が許容できないと回答した。FF3 は、現在は使わないので忘れている可能性があるとしながらも、「-とってン」という形式も許容できると回答した。なお FF2 は、上昇調イントネーションを伴って、来ていらっしゃらないかと質問するときであれば使用できる可能性があると回答した。

アスペクトの過去否定形式については、伝統的なテヤ敬語の形式「-とってなかった」は全員が使用できるとした。-ナイを-ンに置き換えた「-とってンかった」については、FF1、FF3 が使用できるとし、それ以外のインフォーマントは使用できないと回答した。

なお、インフォーマントの発音から、アスペクトの否定形式-テナイとテヤ敬語否定形の「-てない」は判別が可能であることが判明した。

(31) まだバスが来てない。(来ていない)

(32) 先生がなかなか来てない。(いらっしゃらない)

上記の例文(31)、(32)のように、アスペクトの否定形式とテヤ敬語否定形式はアクセントが異なる。そのために両者の混同が起きないのだと考えられる。

6.8. 他形式との違い (IM)

アスペクトの否定形式において、-テン専用ではなく従来形式も併用していることはアンケートの調査から明らかになった通りである (5.2 節)。面接調査では、そのような複数の形式がどのように棲み分けているのか調査した。表 14 は最もよく使うアスペクトの否定形式と、意味や印象の差に関するインフォーマントの内省 (設問 IM) をまとめたものである。

結果から、インフォーマントの中に-テンだけを専らに使用している人はいないことが分かる。アンケートの結果と同様に、伝統形式-テヘンが根強く使用されており、やや少数ではあるが-トラン/-テナイも使用が確認できる。

-テヘン/-トラン/-テナイ/-テンがどのように棲み分けているのかについては、明らかにならなかった。アスペクトの否定という意味・機能についていずれも違いはないというのが一致する見解であり、-テナイが標準語/東京の言葉という印象を帯びている程度である。FF3 は、-テンでは文を終わりにくく、-テヘンのほうが文末に置きやすいと述べているが、実態は不明である。また旧夜久野町・旧三和町域出身のインフォーマントと旧福知山市域出身のインフォーマントで普段使用するアスペクトマーカが異なる傾向も見られなかった。

あくまで内省を尋ねた調査ではあるものの、-テンを使用すると回答したインフォーマントはやや少ない結果となった。この原因については不明であるが、興味深い観点として、ミスコミュニケーションの問題があるとみられる。FF4 によれば、-テンは親世代が使用しているところを聞かないとしている。加えて、現住地 (徳島県) に転居したばかりのころ、-テンを使用すると関西方言の話者にどの意味で使用しているのか確認されることが度々あり、特に大阪の出身者とはよく齟齬が生じたと認識している。FM3 も、京都方言話者との会話で-テンを使用して誤解が生じたことがあるほか、京丹波町など周辺地域の人からは「している」と「していない」のどちらの意味なのかと確認されることが多かったため、他の地

表 14　-テヘン／-トラン／-テナイ／-テンの比較

	よく使う形式	意味や印象の違い
FF1	-テヘン	・意味も印象も違わない。 ・自分は福知山市在住時から-テンではなく-テヘンを使用していたように思う。
FM1	-テヘン、-トラン -テナイは関東に住んでいるため現在使用する。	・意味は全く同じ。 ・-テナイは標準語、東京っぽい。 ・-テンは福知山市在住時は使っていたと思うが、今は使わない。通じない。
FM2	-テナイ -テヘンも使うかもしれない	・印象は大差ない。どれを使うかは好き好きで、意味による差ではない。
FF2	-テヘン、-トラン -テナイは状況によって使う程度 -テンは現在は絶対に言わない。	・-テナイは友人に使うような語ではない。少しあらたまった言葉。 ・カジュアルな時は-テヘンか-トランを使う。 ・-テンは自分も周囲も使っていたか覚えていない。
FF3	-テン、-テヘンの順に使う。 -トランと-テナイはほぼ使用しない。	・意味は同じ。 ・-テンは裏にまだ文が続きそうな感じ、-テヘンは言い切りの形に聞こえる。 ・-テナイは標準語のイメージ。
FF4	-テヘンを使用。 他の形式も使用はするが限定的。	・意味に違いはなく、使用できる状況に制限もない。 ・-トランは女の子が使用する言葉というイメージ。 ・-テンはコミュニケーションが成り立たないことがある。
FF5	-テヘン	・意味に差はない。 ・-テヘンは先生などには使わない。
FM3	-テン	・意味は同じ。 ・-テンと-テヘンはいわゆる「ため口」で使用できる。 ・-テナイは普通使わない、関西弁。 ・-トランは上の世代か、よその人（舞鶴・綾部・宮津など）が使う語で、福知山市の 10 代は使わないイメージ。 ・-テンがミスコミュニケーションの原因となったことは、福知山市の若年層どうしや他世代間ではない。他地域の人には誤解・確認されるので、独自の言葉だという意識がある。

域とは違う言葉だという意識があるという。また FF1 も福知山方言と舞鶴方言（同じ方言域）の話者間で意味が通じていないところを見たことがあるという。このように考えれば、-テンは福知山市の若年層にのみ使用されているといえ、他の年代層や方言話者とのミスコミュニケーションを避けるために-テンを回避するようになった可能性が考えられる[10)]。

10）これとは裏腹に、FF2 によれば、転居後の現在は全く-テンを使用しないため齟齬が生じたことはないし、福知山市在住時にも、記憶の限りではミスコミュニケーションが起きたこともないという。予備調査のアンケートの結果や他のインフォーマントの内省から周辺の方言では-テンを使用しないとみられるため、何らの混乱がなかった可能性は考え難い。表 14 にある FM3 のコメントを鑑みるに、接触する中で周辺方言話者が「～していない」という福知山方言独自の意味があることやアクセントによる規則性を学習したために、衝突が起きなかったと考えるのが妥当だろう。

7.　福知山方言における-テンの発生と定着

前節までは、本研究で行った 3 つの調査の結果について述べた。結果から言えることをまとめると以下のようになる。

(a) 福知山市の若年層はアスペクトの否定形式として-テンという形式を持っている。

(b) -テンはアスペクトを使用できる動詞であれば接続可能であり、使用にあたって特段の制限は見られない。

(b-1) -テン自体が活用可能である。

(b-2) 文中の使用位置、後接する品詞に制限はない。

(c) -テンには特有のアクセントパターンがあり、このアクセントによって類似形式と判別している。

(d) 福知山市の若年層は-テン専用になったわけではなく、他形式とも併用している。

(d-1) 従来形式-テヘンや標準語形-テナイと意味上の区別はない。

(d-2) -テナイの使用は他地域ほどには拡大していないとみられる。

-テンには特有のアクセントパターンがあり、活用したり、後接する語が変わったりしてもアクセントは常に変わらない。これに当てはまるか否かによって類似する他形式と区別している。

以下では、このようなアクセントのパターンを参考に、新形式-テンが成立した要因と、他地域とは異なり-テナイ専用に変わらなかった理由について考える。

7.1.　-テンの成立要因

アスペクトの否定形式-テンは、否定辞の活用体系の欠落を補完するようにして生じたものだと考える。というのも、-テンが存在することで体系が整う側面があるのである。

まず否定辞-ヘンと-ンの対応関係という面からみていく。『方言文法全国地図　第 2 集』（国立国語研究所、1991 年）から、福知山市で使用されている否定辞は-ンと-ヘンである。同じく『方言文法全国地図　第 2 集』より、西日本でアスペクトを表す形式は-トル類（しトル、しトーなど）や-ヨル類（しヨルなど）が多いのが見て取れる。しかしながら近年では、東日本地域で使用されてきた-テイル（しテイル、しテルなど）が流入している。日高（2016）の調査によれば、近畿中央部において、アスペクト否定非過去を表す形式は-トル類の「しトラヘン」ではなく、ほとんどの地域で「しテヘン」が使用されており、かなり定着している。

このように-テヘンが使用されるようになると、否定辞の-ヘンと-ンは以下のような関係になる（表 15）。表 15 の通り、-ヘンと-ンは概ね対応しており自由変異である。ところがアスペクトの否定形を見ると、アスペクトマーカに-トルを使用した場合は-ヘンと-ンの両

表 15　否定辞ヘンとンの比較（動詞「書く」を例に）

	非過去	過去	アスペクト否定（トル）	アスペクト否定（テル）
-ヘン	書かヘン	書かヘンカッタ	書いトラヘン	書いテヘン
-ン	書かン	書かンかカッタ	書いトラン	？書いテン

方が使用できるのに対し、-テルを使用すると否定辞が-ヘンに限られ、-ンは接続しがたい。関西方言ではアスペクト否定形式として-テンを持たないがゆえに、-ヘンと-ンの対応関係が崩れているのである。

加えて、表を横に見ると、「書かヘン―書いテヘン」の関係が成り立つにもかかわらず、「書かン―書いテン」が成り立たない。これは-ヘンと-ンだけでなく、標準語形-ナイと比較しても同様である。「書か｛ヘン／ナイ｝―書いテ｛ヘン／ナイ｝」が成り立つならば、「書かン―書いテン」も成り立ってよいと考えるのは自然であろう。このようにみると、-テンがないことで体系に欠落が生じていることが分かる。

更に、アスペクトの否定形の活用の点からも考察すると、やはり-テンがないことで体系が崩れている箇所があるのである。高木（2004）の調査結果に見られる通り、現在の関西方言では新しい方言形である「-ヘンカッタ／-ンカッタ」「-ンクテ／-ヘンクテ」などの使用が圧倒的に多く、伝統形式「-ナンダ／-ヘナンダ」「-ンデ／-ヘンデ」などがほぼ使用されていない。このような「-ンカッタ・-ンクテ」の語形が拡大すると、アスペクト形式にも以下の活用が生まれると考えられる（表16）。

表16　否定形の活用

肯定形	タ形	クテ形	基本形
書く	書かヘンカッタ 書かンカッタ	書かヘンクテ 書かンクテ	書かヘン 書かン
書いてる	書いてヘンカッタ 書いてンカッタ	書いてヘンクテ 書いてンクテ	書いてヘン ？書いてン

上表のように、「-テンカッタ・-テンクテ」を許容するならば、基本形に該当するはずの-テンだけが存在しないのはやはり体系としてバランスを欠くこととなる。

以上いずれの観点においても、アスペクトの否定形として-テンが存在すれば、より単純で分かりやすい体系が構築できる。体系の欠落を補おうと新形式-テンが発生することは、至って妥当だといえよう。

上記の仮説は、-テンの特徴として述べたアクセントの観点からしても妥当性があると考える。インフォーマントの発音から察するに、福知山では「-トラン」は「寝トラン」「書いトラン」「おぼえトラン」というアクセントである。仮に-テヘンと同じように「-テル＋ン」として-テンが生じた場合、「寝テン」「書いテン」「おぼえテン」となってもおかしくない。同じく動詞の否定も「寝ン」「書かン」「おぼえン」と発音するため、アスペクトの否定を「寝テン」「書いテン」「おぼえテン」と発音するのは自然ではないだろうか。

-テンがあれば体系が整うにもかかわらず関西方言で-テンが使用できないのは、-テンという形がすでに「過去＋ノダ」（～したのだ）とアスペクト肯定（～している）の撥音化形を担っており、受容されにくいからだと考えられる。ところが福知山方言においてはノダ文の過去形「-てん」をあまり使用しないことから、「過去＋ノダ」の「-てん」との同音衝突が回避できた。加えて、関西方言では-トルに軽卑アスペクトの意味があるため-テルをニュ

ートラルなアスペクトとして受け入れやすい土壌があったが、そもそも福知山方言では-トルにそのような意味はなく、単なる中立なアスペクトであった[11]。談話・面接調査のインフォーマントにも、否定形（-テヘン・-テナイ）、丁寧形（-テマス）はみられたが、肯定形は-トルを多く使用しており、-テルの使用度は比較的低い。すなわちアスペクト肯定形の撥音化が起きるとしても、「～しテン」ではなく「～しトン」が多くなり、否定形-テンとの同音衝突は起きない。勿論、関西方言との接触がないとは言えないため、理解のレベルでは混乱も起き得る。ただ、少なくとも福知山方言の内部で使用するレベルでは混同しづらかったと思われる。

なお、このような体系の補完として-テンが生じたのではなく、元来使用されていた-テヘンの/h/が欠落したものではないかという考え方もあるだろうが、これはアクセントの点から否定される。インフォーマントの発音から、福知山方言において「しテヘン」のアクセントは「しテヘン」もしくは「しテヘン」であると思われ、仮に/h/の音が弱化したのであれば「しテン」、ないし「しテン」になるのが妥当だろう。したがって-テンは-テヘンが変化したものではなく、やはり体系の欠落箇所を埋めるようにして成立したのだと考える。

7.2. -テナイではなく-テンに変化した要因

理解語彙とはいえ類似の形式を持ちうる-テンが普及し、また-テナイに変化しなかったのはなぜだろうか。先に述べたように、西日本の各地ではアスペクトの否定形式が伝統形式から標準語形-テナイに置き換わる現象が指摘されている（2 節参照）。だが福知山市では、調査結果（表 14）に示した通り、-テナイは通じる言葉として認識されてはいるもののさほど普及には至らず、伝統形式-テヘンが根強く使用され続け、同時に新形式-テンが出現しているのである。

これは標準語形-テナイがテヤ敬語否定形と同音衝突を起こすためだと考えられる。基本形においては、インフォーマントの発音から考えて、アスペクトの否定形-テナイとテヤ敬語否定「-てない」はアクセントにより判別が可能である（6.7 節参照）。ところが、これらは過去形やテ形にすると同じアクセントで発音され、判別不能となる。

【A】アスペクトの否定形-テナイ[12]

（33）レポートまだ書いテナイ。（書いていない）

（34）レポートまだ書いテナクて（書いていなくて）

（35）レポートまだ書イテナカッた。（書いていなかった）

【B】テヤ敬語否定形「-てない」

（36）あの先生黒板書いてない。（お書きにならない）

（37）あの先生黒板書いてなくて（お書きにならなくて）

（38）あの先生板書書いてなかった。（お書きにならなかった）

11）井上（1993）を参照した。

12）FF2 はアスペクト否定形式は異なるアクセント（しテナイ）で発音したが、しテナイの使用頻度が高いと内省した FM2 を含み、かつより多くのインフォーマントが発音したものに従って記述する。

このため、もともと同形で区別しづらい上に、特定の活用形では区別がつかなくなってしまう標準語形-テナイは他地域ほど広まらなかったと考えられる。

他方、-テンを使用すれば「-テンクテ」「-テンカッタ」という別形式になり、テヤ敬語否定「-てない」との判別を容易にするという利点があった。こうした背景により、福知山方言では標準語形-テナイではなく新形式-テンを受容したと考えられる。

8.　まとめと今後の課題

本研究では福知山方言のアスペクトの否定を表す新形式-テンがどのように使用されているか調査し、-テンが既に若年層に受容され、単なる音韻変化ではなく文法体系を持っていること、独特のアクセントを持ち類似形式と区別されていることを明らかにした。それをもとに、-テンの発生には文法体系の欠落箇所がかかわっていること、-テナイではなく-テンが普及したことには方言敬語「-てない」が関係している可能性を指摘した。

しかしながら、本研究はあくまでもインフォーマントの意識に基づくものであり、その使用の実態は不明である。特に、インフォーマントは既に全員が生活拠点を福知山市外に移しており、その影響もあってか、-テンの用法を内省でき、また内省の結果もほぼ合致しているにもかかわらず、-テンを使用していたか忘れたと内省する人が多かった。中には-テンを使用していた記憶はないし、-テンを使用していた人が周囲にいた覚えもないと主張するインフォーマントすらいた。福知山市における若年層の実際の使用のあり方や、転居を通じた切り替えについてはさらに調査する必要がある。談話調査などで生え抜きの若年層と比較し、実態を知りたいところである。今後の課題としたい。

【参考文献】

井上文子（1993）「関西中央部における『オル』・『～トル』軽卑化のメカニズム」『阪大日本語研究』5，pp.19-32，大阪大学文学部日本学科.

遠藤邦基（1982）「京都府の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 7　近畿地方の方言』pp.87-112，国書刊行会.

奥村三雄（1962）「京都府方言」楳垣実編『近畿方言の総合的研究』 pp.257-300，三省堂.

奥村三雄（1968）「関西弁の地理的範囲」『言語生活』202，pp.50-59，筑摩書房.

岸江信介（2014）「近畿・四国地方における言語変化―動詞否定形式を例として―」小林隆編『柳田方言学の現代的意義―あいさつ表現と方言形成論―』pp.227-244，ひつじ書房.

高木千恵（2004）「若年層関西方言の否定辞にみる言語変化のタイプ」『日本語科学』16，pp.25-46，国書刊行会.

津田智史（2008）「西日本アスペクト表現の否定形式におけるテナイの考察」『徳島大学国語国文学』21，pp.54-65，徳島大学国語国文学会.

中田浩季（2021）「三重県伊賀方言における動詞否定辞のバリエーションの動態 ―3 世代の談話資料に基づいて―」『阪大社会言語学研究ノート』18， pp.1-25， 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室.

二階堂整（2006）「談話資料から見た福岡方言アスペクトの実態」『語文研究』100・101，pp.56-

67，九州大学国語国文学会.
野間純平（2014）「近畿方言におけるネン・テンの成立―昔話資料を手がかりに―」『阪大日本語研究』26，pp.51-69，大阪大学大学院文学研究科日本語学講座.
野間純平（2017）「宮津市方言の原因・理由表現デ・サカイ―談話データに基づく使い分けの実態―」『阪大社会言語学研究ノート』15，pp.22-35，大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室.
日高水穂（2016）「近畿中央部方言におけるシテイル相当形式の動態―現在形と過去形の非対称現象をめぐって―」『國文学』100，pp.85-99，関西大学国文学会.
平塚雄亮（2012）「福岡市方言のアスペクトマーカにみられる言語変化」『阪大日本語研究』24，pp.55-74，大阪大学大学院文学研究科日本語学講座.
福居亜耶（2015）「京都府福知山市方言におけるテヤ敬語の運用について」『阪大社会言語学研究ノート』13，pp.28-51，大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室.

【参照資料】（ウェブサイト）
国立国語研究所編（1991）『方言文法全国地図　第2集』
https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-pdf/gaj-volume/GAJ-vol2.pdf
（2022年3月24日最終閲覧）
国立国語研究所編（1999）『方言文法全国地図　第4集』
https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-pdf/gaj-volume/GAJ-vol4.pdf
（2022年3月24日最終閲覧）
全国方言分布調査（FPJD）https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/fpjd/fpjd_index.html
（2022年3月23日最終閲覧）
全国方言文法辞典資料 活用体系 統合サイト
http://hougen.sakura.ne.jp/db/katsuyo.html　（2022年3月24日最終閲覧）

なかがわ　まきこ（大阪大学卒業生）